

令和6年度 一條小学校 学校研究計画

1. 研究主題

「自らの学びを深めていく子どもの育成

～ 単元構成や課題づくりの工夫 ～ <1年目>

2. 主題設定にあたって

これまでの研究から

本校では、R3～5年度の3年間「学びに夢中になる子どもの育成」を研究主題にし、これまでの学校での取り組みを生かしながら、すべての教科・領域で学校研究を進めてきた。どの教科・領域でも、じっくりと学ぶことのできる課題に取り組むことで、夢中になって学ぶ姿が見られるようになり、研究授業以外でも、子ども自身が「夢中になって学んだ」と感じることである時間をもつことができた。

昨年度末の教員対象のアンケートでは、「自分で学習をつくる力」「学んだことをもとに深める力」「問題を解決する力」をより高めたいという声があった。

児童の実態から

本校の児童は、指示されたことなどにはまじめに取り組むことができ、ほとんどの児童が、学習は大切で将来役に立つと考えている。しかし、自分で判断し行動すること、主体的に考えを伝えたり、批判的に捉えたり、様々な考え方をを見つけたりすることが苦手である。また、学習してすぐは内容について理解しているが、長期的な理解につながらないことも見られる。

昨年度末の児童対象のアンケートでは、学習に対する「意欲」はあるが、「実践」につなげていない、という実態が見えてきた。

これらを総括して、「自らの学びを深めていく子どもの育成」を研究主題として設定し、子ども自ら学びを深めるとはどのような姿か、そのためにどのような手立てが有効であるかを明らかにしていく。

令和5年度 学校研究のまとめ
～アンケート結果をもとに～

☆子どもたちに昨年度より質の高い学びを提供できた。

☆先生方の教科指導における学びが多くあった。

☆来年度の研究につながる児童の実態が見えた。

来年度の研究～教員アンケート結果をもとに～

子どもたちのどのような資質・能力を高めたいですか。

- ・自分で**学習をつくる力**。
- ・自分の考えを友だちに伝えたり、友だちの考えからより**考えを深めたりすることのできる力**。
- ・**学んだこと**をどう使うか自ら考え、**深める力**。
- ・限られたものや情報を活用し、**問題を解決する力**。
- ・**対話しながら学ぶ力**。

学校研究まとめ～児童アンケート結果をもとに～

項目	回答上位2項目の割合 (赤と青)
意欲	新しい課題をやってみたいと思う 88%
	学習したことを生活の中で生かそうと思う 92%
	学習したことは将来役に立つと思う 92%
実践	学習したことを生かして課題に取り組んでいる 89%
	課題から課題を見つけ考えたり調べたりしている 75%
	友達と学び合って自分を成長させている 78%

質問を比較分析すると……

☆意欲はあるが、実践できていない。

⇒来年度の研究の方向性を定める手がかり(実態)

3. 授業づくりの視点

<p>視点1 自らの学びを深めることができる単元構成や課題づくりの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を把握しての単元構成や課題づくり ・手段の一つとして、段階的に自由進度学習を取り入れる ・教科の特性（見方・考え方）や単元構成を考えた課題 ・児童が自ら追求したくなる課題、考えを深めたい課題 ・教科書の課題を一工夫した課題（歴代大魔王の活用も） ・児童自らが課題を自己決定する場面 	<p>視点2 自らの学びを深めるための効果的な学び合いのあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士の学び合い、試行錯誤を大切に ・教師は、子どもたちの学びを深めるためのコーディネートをする（グループから全体へつなげる、児童を様々な視点で観察する） ・学び合いを深めるためのツールの活用（例：思考ツール、タブレット等） ・児童同士相談し、納得解をつくる姿 	<p>視点3 自らの学びを深め自身の変容を実感できるふり返りの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りを通して、自己の変容を実感できるようにする→自己肯定感の高まりにつながるように（教師の励まし、児童同士の交流） ・子どもと教師が評価を共有する（1時間で、単元で等） ・家庭学習と連携し、ふり返りの時間を確保する。 ・ふり返りの視点（学校全体で整備する必要も検討）
---	---	---

日常的な研修・実践

日々の授業の改善（学び合いを意識した、授業づくり）

学級開きから、学び合う風土づくりをする。

普段から教師はお互いの授業を見合い、教師も学ぶことができるようにする。

様々な研修会、他校の授業研究会への参加とフィードバック

- ・ペアやグループでの探究

4. 年間計画

月	日	曜	内容	授業者
4	3	水	第1回 研究推進委員会 今年度の研究の方向性と重点 授業づくりの視点	
4	24	水	第1回 学校研究全体会 今年度の研究の方向性と重点 授業づくりの視点	
4	25	木	研究推進委員会（臨時）	
5	17	金	事前研①	
6	12	水	第1回 校内授業研究会	・鈴木佳(3年算数) ・富士村(5・6年算数)
9	6	水	事前研②	
9	17	火	第2回 校内授業研究会 (山形大学 森田智幸准教授)	・佐藤哲(2年) ・舟越(4年) 全学年通覧
10	16	水	事前研③	
11	15	金	鳥海八幡中学校区授業研究会 会場校 兼 第3回 校内授業研究会 (事後研は小グループで)	梅津・佐藤哲・小松・ 鈴木佳・舟越・富士村 (全6学級公開)
1			児童・教員のアンケート実施	
1	29	水	第2回 学校研究全体会 校内授業研究会の成果と課題・来年度の方 向性	

- ・事前研は、できるだけ事前（前日など）に資料をグループメンバーに配布し、各自目を通しておく。
 - ・事前研の会場は、授業者の教室や学びカフェを使う。（積極的な「学びカフェ」の活用を！）
 - ・事前研で足りなかった場合は、グループのメンバーで相談し、事前研2回目を設ける。
 - ・指導案やふり返りは、校内の共有フォルダに入れ、閲覧できるようにする。
- 研究のまとめの冊子は、作成しない。

5. 校内授業研究会のもち方

授業者は、児童が自らの学びを深められるよう、単元や授業を構成し、実践を行う。

事前研

- 事前研では、共に授業を作るという視点で、自分だったらと考え、取り組むようにする。
 - ①子どもと同様に、子どもの気持ちで取り組む。
 - ②教師の視点で、どのような授業にすると子どもたちが自ら学びを深めることができるかを考える。

授業研本時

- 授業を参観しながら、写真や動画で撮影する。(子どもが自ら学びを深めているシーン)
- 事後研までに数枚選び、事後研で提示できるようにする。

事後研

- 事後研究会はグループごとに(参加の人数によって編成する)

撮影したものを提示しながら、

「自らの学びを深める子どもの姿とは？」ということについて考える。

どんな手立てがよかったか。 どうすればさらによかったか。 自分ならどうするか。

- 参観者各自の気づきをふせん紙に書く。(話題にしやすいよう記名・1枚に1つの内容 大きく書く) 拡大した本時案の該当する箇所に貼って、話し合いを深める。(青…成果 赤…課題 黄…改善案)
- 研究授業の日、課題についてや、学び合い、ふり返りの在り方など、日常の実践をしている中で感じていることについて意見交換を行う。
- 児童の「めざす姿」が授業を通してどうなったのか、教子どもたちが自ら学びを深めるための有効な手立てを児童の表情や言葉と児童の「ふりかえり」などをもとに明らかにしていく。

授業研終了後

- 参観者は、事後研後に写真資料を使い、ふり返りをまとめる。(授業研で学んだこと)
 - 1年間記録(ストック)し、教師自身も変容を感じられるようにする。
 - 自分の学級の普段の様子もできる範囲で記録し、児童の変容に目を向けられるようにする。

6. 学校研究組織

